

日本の原生が残る 秋の「照葉樹の森」を歩く。

私たちの町に、西日本最大級の照葉樹林があることを知っていますか？

稲尾岳や枯木岳、木場岳の一带には、タブノキ、イスノキ、ヤブツバキ、アカガシなどの原生林が古来の姿のまま残っています。

ここは、国の「森林生態系保護地域」「自然環境保全地域」「天然記念物」と3つの指定を受け、未来へ残すべき貴重な森として管理されています。

県から委託を受けて照葉樹の森を管理している、照葉樹の森管理事務所 所長の東さん（かのや緑化協同組合）にお話を伺いました。（左下写真）

「葉っぱの表面を触ってみてください。とても光沢があつてツルツルしてますよね。葉の表面からロウ状の物質が分泌されるからです。太陽の光を浴びると葉っぱがキラキラと照り輝くことから照葉樹と呼ばれています。この森は、人の手が入っていない原生林として、日本古来の森の姿をみることができ、貴重な森です。そのほかにも、絶滅危惧種に指定され、肝属山地にしか生息していないオオスミサンショウウオも見ることが出来ます。これからの季節は水中から陸上にかけて生活するようになります。保護色

 いなただけ
稲尾岳頂上（標高930m）

「西日本最大級の照葉樹林帯」
ここには未来へ残すべき貴重な森が
古来の姿で残っている。